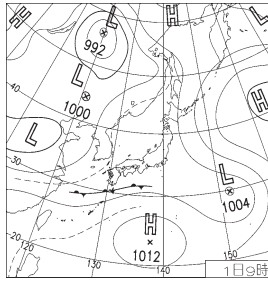


日々の天気図

— No. 102

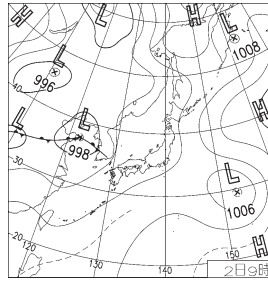
2010年7月

- ・3日～4日、梅雨前線の影響により九州南部で大雨。
- ・12日、フィリピン東海上で台風第2号発生。
- ・26日、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、茨城県では降ひょう、竜巻が発生。
(気象庁予報部予報課)



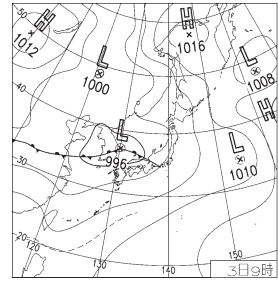
1日(木)関東以西で雷雨

湿った空気の流入した南西諸島・北海道と上空寒気の影響による西・東日本の広範囲でわか雨や雷雨。兵庫県朝来市和田山68.5mm/1hで記録更新ほか、各地で非常に激しい雨。



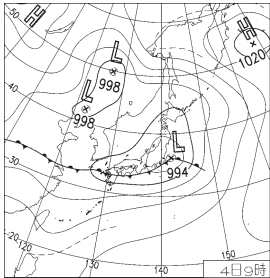
2日(金)連日の雷雨

上空の寒気と暖かく湿った空気の影響で、列島各地で連日の雷雨。鹿児島県鹿屋市吉ヶ別府で85.5mm/1h、埼玉県鴻巣で57.5mm/1h、日本近海は全海域に連日海上濃霧警報発表。



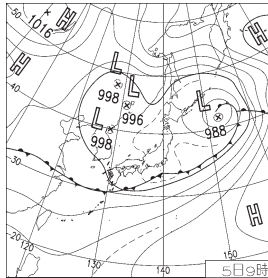
3日(土)九州南部 猛烈な雨

活発な梅雨前線の影響で西～東日本の広範囲で雨。北日本は寒気の影響で雷雨。鹿児島県南種子町上中115mm/1h、宮崎県えびの市えびの110mm/1h。共に観測史上最大値更新。



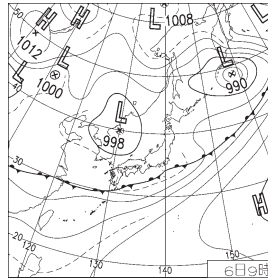
4日(日)九州 引き続き雨

梅雨前線の影響で、九州～四国で雨や雷雨。上空の寒気や湿った空気の影響により、東～北日本で雨や雷雨。北海道平取町旭で57.5mm/1hの非常に激しい雨。



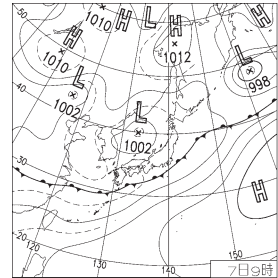
5日(月)関東南部で局地的大雨

梅雨前線は南下、九州の雨は上がる。上空の寒気の影響で西～北日本の各地で雷雨。東京都板橋区で107mmの記録的短時間大雨。東京～埼玉の各地で浸水害発生。



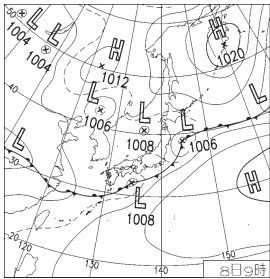
6日(火)本州は連日の雷雨

本州では、湿った気流と上空の寒気の影響で広い範囲で雷雨。福島県郡山で46.5mm/1h。福島県内で浸水害発生。南西諸島は、晴れて真夏の空。沖縄県石垣市伊原間で35°C記録。



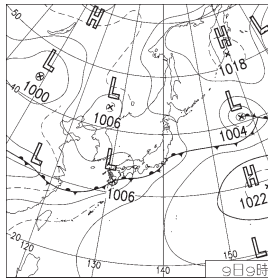
7日(水)各地で局地的大雨続く

ここ数日来、上空の寒気と湿った空気の流入により、大気の状態が不安定で局地的な大雨。島根県吉賀町七日市で83.5mm/1h。福島県滝町東白川で52.5mm/1h。



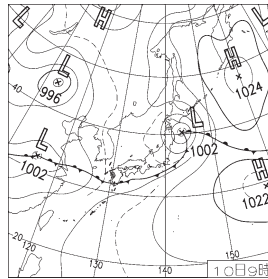
8日(木)日中は晴天広がる

九州～東北は日中晴れた所が多いが、北日本は上空の寒気の影響で、午後から局地的な雨や雷雨。伊豆諸島は夜遅く激しい雨。東京都神津島空港67.5mm/1h。東北北部でひょう被害。



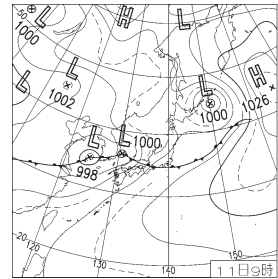
9日(金)雨が日本列島を縦断

梅雨前線上の低気圧の東進に伴って九州～東北の太平洋側を中心に各地で激しい雨。北陸では寒気の影響で雨や雷雨。石川県七尾で70.0mm/1hの非常に激しい雨。



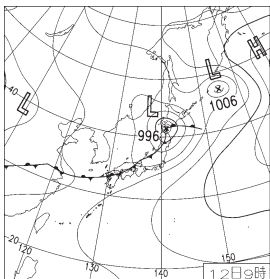
10日(土)北日本と九州で雨

低気圧が三陸沖へ進み、東北部～北海道で雨。九州は梅雨前線の影響で雨。長崎県対馬市厳原で58mm/1hの激しい雨。中国、四国～関東では晴れ間が広がり各地で真夏日。



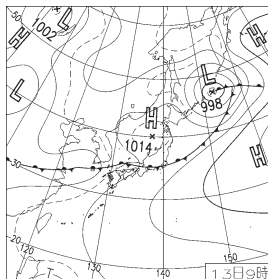
11日(日)雨域、東日本へ

梅雨前線上の低気圧が日本海を東進、暖かく湿った空気の流入で前線活動が活発化、大雨は東日本にも広がる。雨は九州～中国の日本海側で強く、島根県海士で日雨量236.5mm。



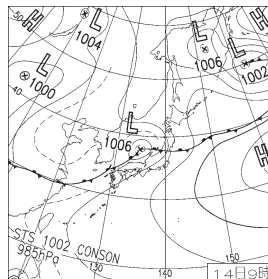
12日(月)台風第2号発生

九州～北海道にのびる梅雨前線に沿って西日本を中心として大雨となり、島根県津和野町森村で67.5mm/1hの非常に激しい雨。フィリピンの東海上で台風第2号発生。



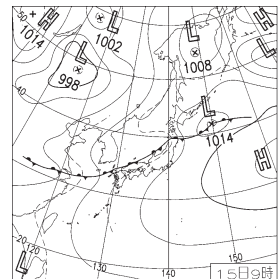
13日(火)徳島県で記録的な雨

梅雨前線の影響で西～東日本は雨。徳島県美波町日和佐で観測史上最大の108.5mm/1hの他、九州北部も50～70mm/1hの非常に激しい雨。北東流の影響で、関東は日中気温が下降。



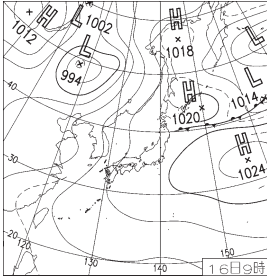
14日(水)西日本 梅雨末期の大雨

梅雨前線の活動が活発になり九州北部を中心に西日本各地で激しい雨。佐賀市北山で80mm/1hの非常に激しい雨。福岡県北九州市小倉南区頂吉で日雨量232.5mm。

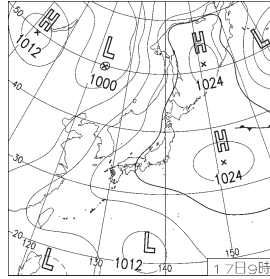


15日(木)奄美 梅雨明け発表

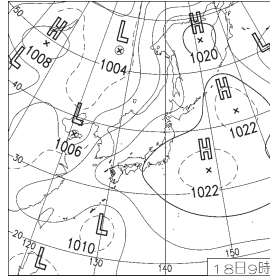
梅雨前線が西日本～東北に停滞し、広い範囲で雨。岐阜県多治見で過去最大の83.5mm/1hなど猛烈な雨も。南西諸島、関東南部、北海道などは晴れ、奄美は梅雨明けを発表。



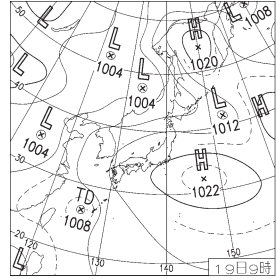
16日(金)梅雨前線東北へ
 関東以西は晴れて気温上昇。日本海側ではフェーン現象が発生。鳥取県米子で最高気温35.5℃。また、湿った気流による不安定で非常に激しい雨。広島県庄原市東本町で64mm/1h。



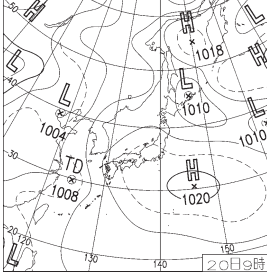
17日(土)各地で梅雨明け発表
 九州北部～関東まで梅雨明けを発表。各地で真夏日を観測。東北では大気の状態が不安定。福島県では北塩原村松原で57.5mm/1hの非常に激しい雨。喜多方で最大瞬間風速30.1m/s。



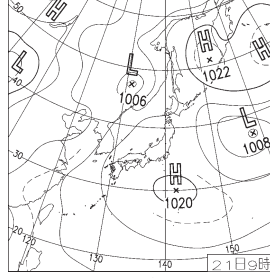
18日(日)関東甲信 今季初猛暑日
 本州付近は高気圧に覆われて朝から広く晴れ。全国11か所で猛暑日となり群馬県館林で36.3℃。北海道や九州南部は雨。東北北部・南部梅雨明け発表。台風第2号、熱帯低気圧に。



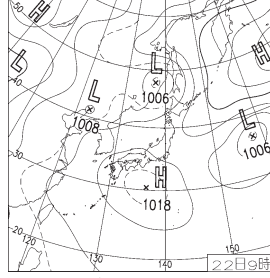
19日(月)猛暑日42か所
 高気圧に覆われた九州～東北では晴れて真夏日が広がる。大分県中津市で36.8℃など全国42か所で猛暑日。熱帯低気圧が通過した沖縄で雨。南シナ海で台風第3号が発生。



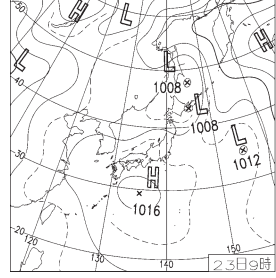
20日(火)九州南部 梅雨明け発表
 高気圧に覆われ、沖縄～東北部で晴れ間広がる。群馬県伊勢崎で38.0℃など内陸の各地で猛暑日。九州南部の梅雨明けを発表。東北～北海道は気圧の谷の影響で雨。



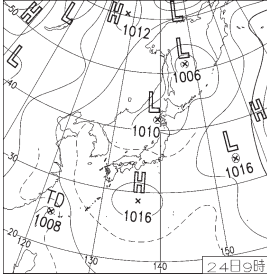
21日(水)日本列島は夏真っ盛り
 北海道や先島諸島は曇りや雨。東北以南は高気圧に覆われ晴れて、最高気温が概ね30℃以上。群馬県館林38.9℃など中国～関東では軒並み猛暑日となる。



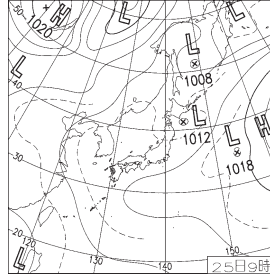
22日(木)気温、39℃を超える
 昨日まで関東甲信にあった高気圧は、南西進し東海に移る。このため暑さの中心も東海に移り、東海では12か所で最高気温の7月の極値を更新。岐阜県多治見で39.4℃。



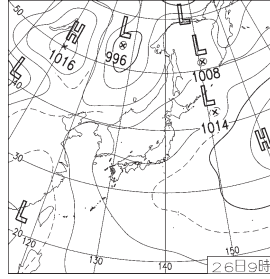
23日(金)暦どおりの「大暑」
 東海や関東を中心に猛暑日続く。三重県桑名・岐阜県多治見・群馬県館林で38.9℃。関東北部は夜に激しい雷雨。栃木県佐野で71.5mm/1h。茨城県で震度5弱の地震。



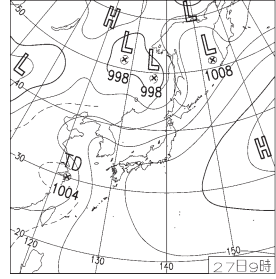
24日(土)広い範囲で猛暑日
 東海・関東を中心に全国152か所で猛暑日。東京都千代田区大手町の猛暑日は連続記録4日のタイ記録。午後は関東各地で積乱雲が発生し雨や雷雨。埼玉県寄居で61mm/1h。



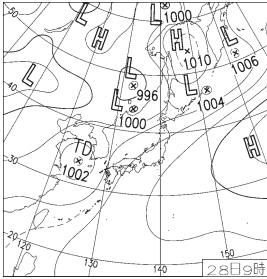
25日(日)全国的に山沿いで雷雨
 西～東日本の96地点で猛暑日。上空の寒気の影響で、山沿いを中心に全国的に雷雨。茨城県石岡市柿田で観測史上最大の88.5mm/1h。低気圧が通過した東北～北海道で雨。



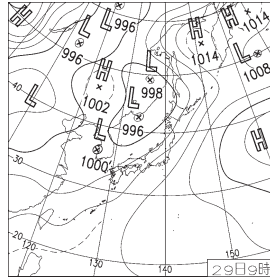
26日(月)霞ヶ浦で竜巻
 上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、本州は連日の雷雨。福島県玉川で63mm/1h。茨城県南部で直径2cmのひょうが降り、霞ヶ浦では竜巻発生。岐阜県多治見で38.3℃。



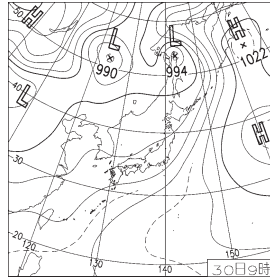
27日(火)全国的な暑さ続く
 南西諸島と北海道は曇りや雨だが日中一部で晴れ間も。北海道では各地で強い雨。その他は概ね晴れ、午後から山沿いを中心に雷雨となったが散発的。大分県玖珠で47mm/1h。



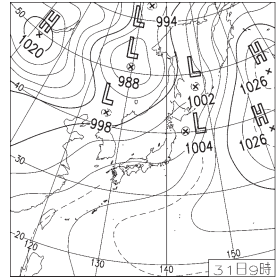
28日(水)南と北で激しい雨
 高気圧の張り出しが後退。東日本～東北は日中晴れたが、西日本は朝から曇りが広がり、湿った空気の流れにより雨の地域が拡大。九州・四国や北海道で30～50mm/1hの激しい雨。



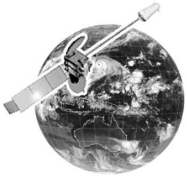
29日(木)全国的に雨
 高気圧の西の縁を南から流入する湿った空気と北海道付近を通過した低気圧の影響で全国的に雨が広がる。沖縄県伊是名村仲田では61.5mm/1hの非常に激しい雨。



30日(金)東北で激しい雨
 西日本と東海では概ね晴れ。関東と北日本では、湿った空気の流入や低気圧から延びる前線の影響で、秋田県角館で59.5mm/1hなど東北で非常に激しい雨の所も。

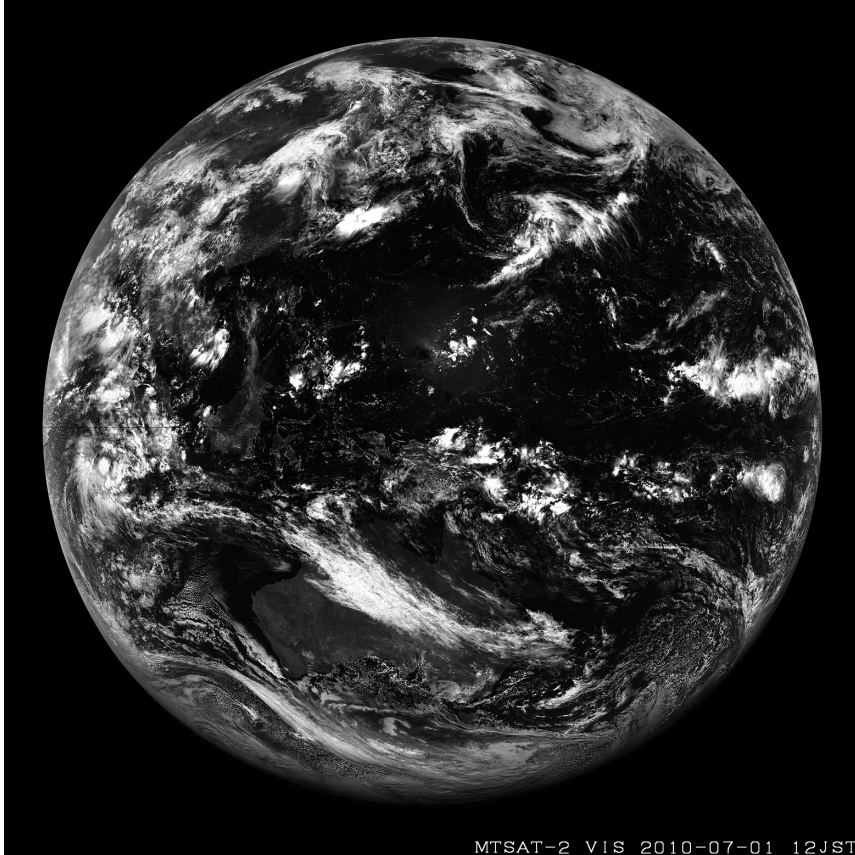


31日(土)猛暑ぶり返す
 東北を除き晴れる所もあったが、大気の状態が不安定で山沿いを中心に所々で大雨。山梨県大月で44.5mm/1h。関東を中心に猛暑がぶり返し、群馬県館林で36.8℃。



今月のひまわり画像—2010年7月

6号から7号へのたすきリレー



第1図 7月1日12時 ひまわり7号の可視全球画像。

2010年7月1日12時（日本時間）、運用気象衛星が「ひまわり6号」（以下6号）から「ひまわり7号」（以下7号）に切り替えられた。第1図は切り替え直後の7号が観測した可視全球画像である。

6号は、2005年6月28日12時から「ゴーズ9号（パシフィックゴーズ）」の後を引き継ぐ形で観測を行ってきたが、2010年6月に観測機器の設計上の運用期間である5年を満了したことから、今回7号に観測を引き継ぐことになった。

「ひまわり5号」までの衛星の運用切り替え時には、旧衛星と新衛星を同時に移動させ、新衛星を東経140度の静止軌道に静止させるまでに6時間程度の欠

測を伴っていたが、今回は7号を東経145度の静止軌道に静止させたまま切り替えを行ったため、欠測を伴わないスムーズなたすきリレーとなった。

今後7号は2015年まで運用衛星として6号と同じスケジュールで観測を行い、6号の静止位置（東経140度）で観測したものと同様の見かけになるように画像処理されたデータを提供する。一方6号は、7号が障害等により長時間観測できなくなった場合に代替観測を行うとともに、引き続き衛星経由の中規模利用局（MDUS）及び小規模利用局（SDUS）向けの画像データの配信を担当する。

（気象庁予報部予報課 西村修司）